

再エネで地域振興図る

再生可能エネルギーを起点とした産業クラスターを本市に形成し、地域の振興を図ろうと、市は県産業技術センター(坂田裕治理事長)、株式会社NTTデータ経営研究所(山口重樹代表取締役社長)、一般財団法人地域社会課題解決研究所(岡元行人代表理事)と連携協定を締結しました。

この日締結された協定に基づき、4者それぞれの専門的な知見を生かして連携・協力し、再エネのメンテナンス人材の育成手法や、スマート農業へのグリーンエネルギーの活用、新たな地域エネルギー事業体創出の可能性などについて検討を進める予定です。

協定書に署名を終え、倉光市長は「市の地域振興、地域活性化の充実に大きく寄与するものと大変心強く感じている」とあいさつしました。



協定を締結した(左から)岡元代表理事、倉光市長、坂田理事長、村岡元司執行役員

熱気あふれる2日間 稲垣まつり開催



やぐらを囲み輪になって踊りを楽しむ参加者

稲垣地区で地域の夏を彩る「第3回稲垣まつり」が2日間にわたり開催されました。

初日は、子どもたちが元気いっぱいに参加した綱引き大会(小学生・幼児の部)をはじめ、よさこい演舞やのど自慢大会、ライブステージ、盆踊りなど多彩な催しが行われ、会場は笑顔と歓声に包まれました。また、出店やキッチンカーも並び、家族連れや友人同士でにぎわいを見せました。

2日目はあいにくの雨となり、一部プログラムが中止・変更となったものの、のど自慢大会やライブは予定どおり開催され、観客の熱気が雨を吹き飛ばすかのような盛り上がりを見せました。

来年の本大会へ弾み 東北高等学校柔道大会開催

来年10月に本市で開催される「青の煌めきあおもり国スポ」の競技別リハーサル大会として、「第75回東北高等学校柔道大会」が開催されました。

大会には、東北6県から高校柔道の強豪校が集結。木造高校や本市出身の選手も出場し、白熱した試合が繰り広げられました。各校代表の選手たちは、日頃の鍛錬の成果を存分に発揮し、会場は緊張感と熱気に包まれました。

また、来年の本大会に向けて、競技環境や運営体制の確認も実施され、市職員や関係団体が連携しながらスムーズな大会運営に努めました。

市では、来年の本大会に向けて地域一体となった機運醸成を図り、全国から訪れる選手たちを万全の体制で迎えらるよう準備を進めていきます。



熱戦を繰り広げた木造高3年の豊嶋大翔選手(右)

親子で学ぶ 防災教室



7/1
穂波小

簡易トイレの使い方を学ぶ児童と保護者たち

穂波小学校(蒔苗元紹校長)では、全校児童100人と保護者約50人が参観日を活用し、防災教室を開催しました。

この教室は、地域全体の防災意識を高めるとともに、災害発生時に開設される避難所の設営や運営について、実践的に学ぶことを目的としたものです。

この日、一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと、市防災危機管理課の協力のもと、児童たちは防災に関する講話を聞いたほか、簡易トイレの使い方や段ボールベッドの耐久性などについて学びました。

体験を終えて、3年生の三石涼太君は「本当に災害がきたときには、トイレの使い方など、今日教わったことを思い出して、きちんとルールを守りたい」と話しました。

犯罪や非行のないまちへ 市民が心をつな

第75回「社会を明るくする運動」市民集会在開催され、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を実現しようと市民ら約300人が会場に集いました。

集会では、森田小6年の長谷川奈美さんと佐々木理音さんが「つがる市が心も体も元気な子どもたちでいっばいになるように頑張ります」と力強く宣誓。社会を明るくする運動作文の発表では、森田中1年の七戸ことねさんが、思いやりの心を持つ大切さを来場者に伝えました。

最後のアトラクションでは、五所川原第一高校津軽三味線部による心に響く演奏が披露され、観客を魅了していました。



7/4
松の館

作文を発表する七戸さん

勇壮華麗な演舞で観客を魅了



7/6
伊藤鉦業アリーナ
つがる

よさこい知求群会の力強く華麗な演舞

市制施行20周年を記念して、市内初となる大規模なよさこいイベント「つがる市YOSAKOIフェスティバル」(つがる市YOSAKOIフェスティバル実行委員会主催)が開催されました。

開会式では、今由紀子実行委員長が「たくさんのパフォーマンスを見て楽しんでいってください」とあいさつ。オープニングは、育実幼稚園ととりた保育園の園児たちによる元気いっばいの踊りで幕を開けました。

この日のイベントには、市内外から14チーム・約200人の踊り手が参加。各チームが個性豊かな衣装を身にまとい、力強い演舞を披露し、会場は終始熱気に包まれていました。観客からは「元気をもらえた」「すてきな踊りだった」などの声が上がっていました。

演舞に参加した市内のチーム「女舞姫」の境梨々唯さんは、「楽しく踊ることができた。企画・運営に携わった皆さんに心から感謝している」と笑顔で話しました。

5月18日に開催された「第38回マルちゃん杯東北柔道少年大会」に出場した木造柔道少年団が小学生の部で見事3位の成績を収め、9月21日から開催される全国大会への切符を手に入れました。

この日、選手ら8人が市役所を訪れ、大会の結果や今後の抱負について話しました。

キャプテンの粕谷蒼音選手(向陽小6年)は「東北大会では惜しくも3位だったが、みんなで頑張ることができた。全国大会では優勝目指して頑張りたい」と抱負を語りました。

倉光市長は「全国大会ではさまざまな技術をもった選手が集まります。いろいろな選手との出会いから多くを感じ取り、けがのないよう精一杯戦ってきてください」と激励しました。

全国大会での健闘を誓う



7/7
市役所

健闘を誓う木造柔道少年団の選手たち



7/11
瑞穂小

甘〜いメロンに思わず笑顔

旬の味覚を堪能 給食にタカミメロン

7月6日の「つがる市メロンの日」にあわせて、市内の認定こども園や小中学校の給食につがるブランド認定のタカミメロンが登場。教職員を含む2,741人が旬の味を楽しみました。

瑞穂小学校(山舘伸太郎校長)では、給食の前につがる市が全国でも有数のメロン産地であることや、「メロンの日」がなぜ7月6日なのかといったクイズ形式の話題も出され、児童たちは楽しみながら地元農産物への理解を深めていました。

3年生の太田陽翔くんは「給食に出る日を楽しみにしていた。柔らかくて皮の近くまで甘くておいしかった。」と話し、児童たちは皮のさわまでしっかり味わいながら、堪能して食べていました。

笑顔と工夫あふれる かかし作り交流プロジェクト

東北防衛局主催の「かかし作り交流プロジェクトinつがる2025」が開催され、車力小学校(佐々木綾子校長)の5年生25人と米陸軍車力通信所の関係者が交流を深めました。

この日、参加者は5チームに分かれ、稲垣藁の会(野崎克行会長)会員のサポートのもと、稲藁を棒に巻き付けて頭や胴体を作り、浴衣を着せるなどの工夫を凝らして、個性豊かなかかしを完成させました。

平山紗雪さんは、「かかしが魚をくわえるアイデアなど、米軍の人たちとたくさんアイデアを出し合って楽しかった」、ジェシー・ミルズ大尉は「それぞれのチームが楽しんでいてよかった。創意工夫にあふれる作品ばかりで、投票結果が楽しみ」と話しました。

完成した5体のかかしは、北消防署・市役所・車力小にそれぞれ約3週間ほど展示され、人気投票が行われます。



7/16
車力小

協力して個性あふれるかかしを作る児童と米軍関係者たち